

オリジナル童謡で癒しを

歌と映像組み合わせ 春めき財団

南足柄

南足柄市で生まれた早咲きの桜「春めき」を活用した社会貢献事業に取り組む一般財団法人「春めき財団」（古屋富雄理事長、同市塚原）では、「童謡」に着目した新しい試みを本格的に始めた。オリジナルの童謡を制作。大人の心を癒すものになれば、普及に意欲を見ている。

新たに始めた取り組み。ような気持ちで楽しめ、大人に子供のみ、心を癒してもらえ



れば、オリジナルの童謡と楽曲にあった映像を組み合わせた作品にしている。

童謡はいずれも古屋理事長が作詞と作曲を担当。これまでに3曲が完成している。最新作は今月初めに制作した「山百合の花」。病にふせている母親が好きたったヤマユリをテーマに親子が織り成す家族愛をイメージし制作したという。

古屋理事長は、ヤマユリを取り上げた本紙オリジナル童謡のDVD

記事（7月18日付掲載）から着想を受け、すぐに楽曲を制作。歌い手は、ミュージシャンの平野融さん。編曲は平野さんと雨宮悦子さん。映像は7月下旬に箱根町内でドローンを使い撮影した。撮影場所は大観山周辺、4K高画質で捉えたヤマユリや芦ノ湖、

箱根外輪山の雄大な景色などが見られる。撮影当時は中島芳男さん。ヤマユリは箱根全山でも見られる。古屋理事長は、新型コロナウイルス感染症の影響で観光面でも大きな打撃を受ける箱根町のPRにもつなげられ、としている。同財団ではこれまで、同楽曲のほか2作品（ツバメ、ひまわり）を制作。今後、春めきや支援金を寄付する際に、作品のDVDと楽譜を配布し周知を図る。各作品は動画配信サイトYouTubeの同財団公式チャンネル

（<https://www.youtube.com/channel/UCBk1zvi3G1qumtbs288>）でも公開中。古屋理事長は「童謡は大人の心を癒す人生の原点。帰郷ソングとして思っている。毎月1作品のペースで作っていかれば」と意欲的。今後は、歌い手を子供にしたバージョンやアルバム制作も考えているという。同財団では、依頼人の半生を歌と映像で振り返るセレモニビデオを制作し、視覚障害者の支援も行っている。